

ZAO

The resort of snow, superb hot springs and magnificent mountains

蔵王の樹氷

Fantastic wind blown snow figures (frozen-rain covered trees)



YAMAGATA

名湯名山 蔵王温泉

蔵王の樹氷 観賞のご案内

その姿からアイスモンスターとも呼ばれる**蔵王の樹氷**は、蔵王連峰(奥羽山脈の一部)の類稀な気象条件と植生等が織り成す、雄大で繊細な氷と雪の芸術品で、大自然の驚異と恵み、感動を体感することができます。

蔵王の樹氷の魅力は、広大な樹氷原パノラマ、気軽に簡単にロープウェイで行ける便利さ、そして、日中(デライト樹氷)と夜(樹氷ライトアップ)のコントラストを楽しめるところにあります。例年12月下旬から始まり、2月にピークを迎え、3月上旬まで観ることができます。

＊ デライト樹氷観賞 ＊

広大な樹氷原をご体感ください。蔵王ロープウェイ山麓線、山頂線乗り継ぎばそこは樹氷原。しかも山頂線は、平成15年(2003)12月にリニューアルした最新式のゴンドラで、お待たせすることなく、ゆったり快適に樹氷の大パノラマを満喫できます。樹氷観賞のお客様(スキー・スノーボードをお持ちにならないお客様)は、前日まで人数、到着予定時刻をご連絡ください。

観賞期間／12月下旬～3月上旬

運行時間／8:30～17:00

乗車料金／おとな2,500円・子ども1,250円(山麓線・山頂線往復乗車料金)

※蔵王温泉バスターミナルから蔵王ロープウェイ山麓駅まで、徒歩約15分・タクシー約2分・シーズン中有料シャトルバス運行予定



＊ 樹氷ライトアップ観賞 ＊

静寂なそして漆黒の闇の中に、色彩豊かな照明で浮びあがる樹氷の姿は、日中の白銀に輝くそれとは趣きが全く異なり、まるで幻想の世界に迷い込んだ雰囲気です。冬の夜のファンタジーを是非お楽しみください。

運行期日／年末年始・1月の週末、2月～3月上旬(詳しくはお問い合わせ下さい。)

運行時間／17:00～21:00(受付時間19:50まで)

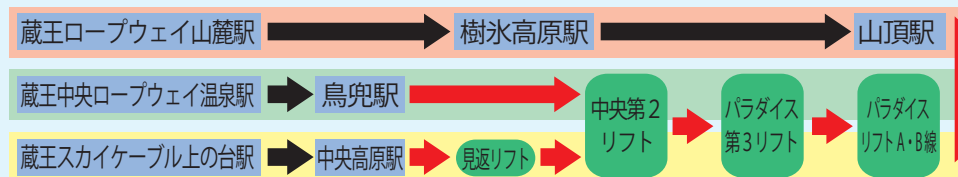
乗車料金／おとな2,500円・子ども1,250円(山麓線・山頂線往復料金)



＊ 樹氷原観賞スキー・スノーボード ＊

雄大な樹氷に囲まれたダウンヒルコース。爽快な気分で樹氷原を楽しめます。

樹氷原へのおすすめルート



※ ➡ はロープウェイ・ケーブル乗車(乗車時間は全て1区間約7分)。/ ➡ はゲレンデ・コース移動。



＊ 樹氷原観賞トレッキング ＊

かんじきなどを付けて樹氷を観ながらスノートレッキングが楽しめます。(トレッキングは、蔵王山岳インストラクター又は冬山登山経験者の同行をおすすめします。)



樹氷観賞のご注意とお願い

樹氷は時期・気象状況によって形・見え方が異なりますので、観賞前にお問い合わせください。

- 防寒対策を万全にしてください。
- 所定のエリアでご観賞ください(安全ロープの外には決して立ち入らないでください)。
- 悪天候の場合は、ロープウェイが運休になることがありますので事前にご確認ください。
- 樹氷ライトアップでは、スキー・スノーボードの持ち込み、滑走はできません。また、-10℃以下になりますので、更に防寒対策を万全にご観賞ください。
- ロープウェイのお問い合わせは、TEL 023-694-9518(山麓駅)。

樹氷観賞マップ



樹氷観賞 1 山頂駅周辺

おすすめスポット

樹氷を間近で観ることができます。驚きのスケールを体感してください。



樹氷観賞 2 山頂駅展望台

おすすめスポット

樹氷原をパノラマで一望できます。記念撮影がおすすめ。(悪天候の場合利用できません)



樹氷観賞 3 レストラン山頂

おすすめスポット

寒いのが苦手な人におすすめ。暖かいレストランの中の大きな窓から快適に観賞できます。



樹氷観賞 4 ロープウェイ車中

おすすめスポット

樹氷原360°の眺望を、循環式の18人乗りのロープウェイでゆったり座って楽しめます。



蔵王の樹氷とは・・・



昭和10年頃の樹氷

起源

大正3年(1914)、地元関係者の冬山探検で発見され「雪の坊」と呼ばれ、後に「樹氷」と名づけられました。

研究

樹氷の研究は、戦闘機が凍結で墜落するのを防ぐため、昭和17年(1942)、時の政府と東北帝国大学(東北大学の前身)の共同で、着氷現象の観測・研究に適した蔵王地蔵山頂に測候所を建てたのに始まり、翌18年(1943)に最初の観測が行われました。戦後は「蔵王高層気象着氷対策研究所」と名を変えて、樹氷の研究が進められ、その後山形大学に受け継がれました。

世界への紹介



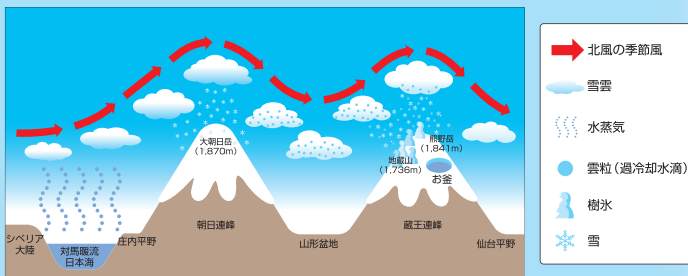
アーノルド・ファンク撮影隊

昭和10年(1935)、映画監督・塚本閔治氏がスキー映画「冬の蔵王」を撮影、発表し、欧米で4つの賞を受ける。その映画の影響を受けたドイツ人の世界的山岳映画の巨匠アーノルド・ファンク博士は、助監督のウォルター・リムル氏、カメラマンのカール・ヴホルツ氏を含む撮影隊を蔵王に送り、記録映画「蔵王-白銀の乱舞」を制作し、「蔵王の樹氷」を世界に紹介しました。

樹氷ができる条件

樹氷は、東北地方の奥羽山脈の一部の山域(八甲田山、八幡平、蔵王連峰、吾妻山)の亜高山地帯にしか確認されず、海外でもはっきりした報告はありません。樹氷ができるためには、次のような特殊な条件が必要だからです。

- 1 着氷と着雪の基になる多量の過冷却水滴と雪が、常に一定方向の強風で運ばれてくること。(風向が一定しないと、樹氷は成長しません。気温が高いと雪が解け、また低すぎても雪が付きにくい。シベリアからの北西の季節風は、日本海の対馬暖流(夏は25℃くらい、冬でも10℃前後)から多くの水蒸気をもらい雪雲をつくります)その雪雲は朝日連峰で上昇して多量の雪を降らせ、山形盆地を通り、再び蔵王連峰で上昇して雪を降らせます。そのときの雲の中は、多くの雲粒が0℃以下でも凍らない過冷却水滴になり、雪と交じり合った状態になります。蔵王の1~2月頃は快晴の日が少なく、風向は北西から西を示し、平均風速10~15m/s、平均温度-10~-12℃の吹雪の世界となります。



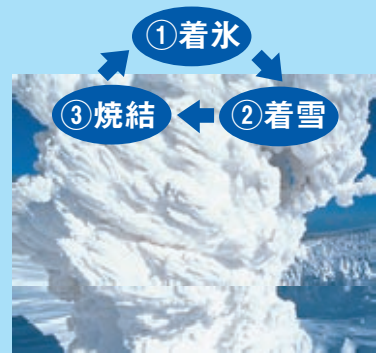
- 2 植生として、「アオモリトドマツ(学名:オオシラビンAbies mariesii・亜高山針葉樹林の代表種)などの着氷と着雪の起こりやすい常緑針葉樹が自生していること。(ブナなどの落葉広葉樹では氷や雪が付きにくい)
- 3 積雪が適量であること。(雪が多すぎると、「アオモリトドマツ」は埋没します。また少なければ、当然樹氷はできません。なお、蔵王の樹氷原の積雪の深さは、平年で2~3m程度です。)

樹氷のでき方

樹氷は、「アオモリトドマツ」に

- ①着氷 (雪雲のなかの「過冷却水滴」が枝や葉にぶつかり凍りつく)
 - ②着雪 (着氷のすき間に多くの雪がとり込まれる)
 - ③焼結 (0℃付近の雪は、互いにくっついて固く絞まる)
- という現象が繰り返され、風上に向かって成長します。

こうしてつくられた樹氷の表面は、その形状から「エビのしっぽ」と呼ばれています。「エビのしっぽ」は、先端をはじめ、縁や外側部分で盛んに成長するため、発達する幾つも重なり合っ群れをなします。尾びれ状の長さは10cm程度で、叩くと簡単に壊れます。また、樹氷群を巡る風は様々に乱れ、樹氷表面のエビのしっぽは複雑に変化し、樹氷独特のスタイルを造り出します。



12月



樹氷の初期(アオモリトドマツ)

1月~2月



樹氷の最盛期

1月~3月



樹氷ライトアップ

樹氷観賞のお問い合わせ

蔵王ロープウェイ山麓駅 TEL 023-694-9518
蔵王温泉観光協会案内所 TEL 023-694-9328

山形市観光協会・山形市観光キャンペーン実行委員会
www.kankou.yamagata.yamagata.jp